

1215.6



O N G A

K U

～ 音 で 笑 顔 に ～

早いもので、今年もあと二週間ほどとなりました。この一年間も思い出に残ることがいくつあったことでしょう。さて、今年の思い出の「音」はどんな音でしょうか？印象的な出来事の中で、その場面やその時の心境と共に「音」の記憶も残っているはずです。今年を振り返りながら、家族などで思い出の音を語り合ってみてはいかがでしょうか。

【ミャンマー紀行】その2

来日中のミャンマー教育視察団が日本の音楽教育現場を何箇所か見学し、最終的に私たちNPOの活動をミャンマーへの招待団体に選択してくださった理由は、なんととっても教育的な音楽活動でありながら既製の楽器を一切使わない、つまり高価な楽器を購入しなくても質の高い音楽教育が可能になるという点でした。日用品を使った手作り楽器は勿論ですが、身の回りの環境にある素材をそのまま楽器として扱う「環楽器」に大きな関心をもって頂けたのでした。

実際に現地で最もこのことを実感したのがヤンゴン市内の寺子屋での授業でした。ミャンマーという国は辺境の地で、紛争を続ける少数民族の問題を抱えています。その授業を行ったのは、紛争で親を亡くして難民となってしまった就学前の孤児達のクラスでした。少数民族であるが故にそれぞれの部族で原語が違い、幼児クラスなので公用語も未だ使えず、友達同士は元より先生方とも満足なコミュニケーションがとれない彼らの授業はとても異様な雰囲気が始まりました。異様と感じたのは、彼らの強ばった表情でした。幼児であるのに無表情であると言っても過言ではないほど、明るさとか無邪気さが全く見られない子どもたちの集団が、おしゃべりも無く緊張というより怯えた表情で教室内に入ってきた時、「よし！何としてもこの子達を笑顔にしてみせるぞ！」という強い思いに駆られました。その時の授業内容は、竹を節ごとにの長さで切ったTAKEのアンサンブルです。

7人位の子どもたちに一人1本ずつ長さの違う竹筒を配り、円陣になって座させます。あとはリズムも何も関係なく、筒状の竹の底部を地面に打ち付ける音を一人ずつ出して重ねていくだけ。私の合図で最初の子が音を出し、次の子その次の子と、全員揃ったら私の大きな合図で竹を地面に叩きつける。同じようにしてテンポをメチャクチャに速くしてその次をおとをドンドン小さくしていき、最後に消える位小さくなったところで、私の「せーのっ！」のかけ声で「ポン」と地面に揃えて打ち付けて終わり。これらほんの数回やっただけで、最後のポン！が見事に揃うようになった。

別の子ども達に替わってま同じ事を繰り返すと、前の子たちを見ているのですぐに揃う！たったこれだけのことなのに最後の「せーのっ！」ポン！が揃うとみんな大喜び。そうなるともう子どもたちは次のアンサンブルに参加しようと夢中になって我先にと身を乗り出すようになっていったのです。授業開始の硬い表情はもう何処にもありませんでした。

リズムなどの決まり事が無くても、みんな音を重ねるだけで楽しい！の気持ちが育てばア

ンサンプルはいくらでも成立する！まさに音を楽しむONGAKUの真骨頂です！今でも彼らの無邪気の生き生きとして満面の笑みが忘れられません。実はそんな私たちに、跡見女子大学学長の笠原清志先生から再びミャンマーへの招待（12/23～30）オファーが舞い込みました。またミャンマーの子どもたちに会える！！

【就労支援作業所 サンワーク田無にて】

日頃、手作り楽器の部品製作などでお世話になっている特定非営利活動法人燦燦会の就労支援作業所「サンワーク田無」さんからの依頼で、地域交流の事業の一環として作業所が所在しているマンション住民との交流を深める「音を楽しむONGAKUワークショップ」の開催を依頼されました。

6月21日当日は、マンション住民の方と作業所利用者の方合わせて30名ほどの方が参加され、皆さんにマリンカンづくりと自由連弾を愉しんでいただきました。参加者は若い方からご高齢の方までいらっしゃったのですが、マリンカンが好評だった上に自由連弾でも皆さんがノリノリで弾けていたのには 主催者からは「今日は想像以上に愉しまれていたので嬉しかったです！今後も年に何回かお願いできればと思っています。」という嬉しいお言葉をいただきました。普段は指導者や親子対象のワークショップが主な私たちですが、今後はこうした一般の方向けのワークショップも開催していければと考えています。皆さんの地域でもご要望があれば是非お声掛けください。

【明星大学 音遊びワークショップ】

10月17日（水）に明星大学の依頼を受けて、京王アカデミープログラム「子育てサロン」耳をすまして心ワクワク！音あそび・アニマルシアターの音あそびのワークショップを当NPO法人池田理事長・斉藤副理事長・佐藤が担当し、京王電鉄 HUGHUG の2階カフェで行いました。

親子で身近にあるもので作れる楽器ということで、マリンカンとポップー笛を作りました。

ワークショップは1回40分間で午前と午後の2回行われ、午前の部は8組の親子（就学前）と1組の孫と祖父母が参加しました。

初めにマリンカン作りです。参加者にはコーヒーの空き缶2つを用意してもらい、始まる前に2つのうち1つに水を入れてもらいました。それを私たちスタッフのところへ持ってきてもらい、もう1つの空き缶の飲み口を合わせてブチルテープで止めました。その後、幅広いアルミテープをブチルテープの上から巻きます。アルミテープのしわを竹の箸で伸ばして（水が漏れないように）マリンカンの出来上がりです。逆さまにして耳を付けると子供も大人もニコッとなって水の音を楽しんでいます。そこで、マリンカンのおもしろい音の聴き方

を伝授。「わぁ！おもしろいね。」とあちこちから声が上がりました。1組で1つのマリンカンを作ったので、あるお母さんから「私も作りたい。」との声もありました。最後にマリンカンの周りを飾りました。予め用意したシール付きの色紙やキラキラの紙やテープを貼って、個性豊かなマリンカンが完成し



ました。一人ひとりのマリンカンを皆に紹介しました。

午後の部は4組の親子が参加。（実は手違いで参加希望者に連絡が行かなかったため、後日改めてワークショップを行うことになりました。） 午前は、スタッフの自己紹介が話だけになってしまったので、午後は紹介されたらポップー笛を演奏しながら登場し、「これからこの笛をつくります。」と始めたら、親子の顔がぱあっと明るくなって、スムーズにポップー笛作りが始まりました。この演出が良かったのか、マリンカン作りの時もポップー笛を吹きながら作っている子がいて、私たちも嬉しくなりました。

午前午後とも参加者が積極的で私たちも楽しく、40分間があっという間に終わってしまいました。親子で楽しんでいる姿を見ると、心が温かくなりました。



<週刊 教育資料に載りました！>

管理職の先生方がよく読まれている（?!）週刊教育資料の7月9日号に、本NPO理事長の池田邦太郎のインタビューが載りました。表紙のカラー写真も池田理事長。小学校の教師だった時に、音を楽しむことの意味や聴くことの大切さに気付いたこと、学生時代からの廃材による玩具づくりがやがて楽器になっていき、音を楽しむために生まれたのが「マリンカン」であることなどが語られました。また、NPOのワークショップでは、「親が子供の考えを認めたり、子供らしい発想が如何に素晴らしいかを理解したりすることの重要性を伝えている」という話も載りました。

【今後の活動予定】

～ご参加などについては、本会事務局までご連絡ください～

- ★1月13日（日）午前中 静岡県文化プログラム・トークシリーズ「こどもと音楽」
- ★1月24日（木）11：00～12：00 江古田の杜「もりのいえ」
幼児と親向けの木曜イベント
- ★1月26日（土）11：00～12：00 江古田の杜「もりのいえ」 パパと遊ぼう
- ★1月28日（月）9：30～12：00 畑町ガーデンにて自由連弾
13：00～15：00 すみだふれあいセンター

■賛助会員を募集しています！

本会の活動は殆ど全て会員の皆様の会費で賄われています。本会の事業の趣旨に賛同し、ご支援していただける方は、是非賛助会員になってください。現会員の方は、お知り合いの方などにお声をおかけください。賛助会員になってくださる方（または誘ってくださった会員の方）は、まず下記の事務局までご連絡ください。

賛助会費は、年間3000円です。よろしくお願い致します。

振込先

- | |
|---|
| ① ◆三菱東京UFJ銀行 向島支店 ◆口座番号：普通 0088065 ◆名義名：NPO法人 音を楽しむONGAKUの会理事長 池田邦太郎 |
| ② ◆ゆうちょ銀行 ◆口座記号：10090 口座番号：18396671 ◆加入者名：トクヒ）オトヲタノシムオンガクノカイ |

NPO法人 「音」を「楽」しむONGAKUの会
〒131-0032 東京都墨田区東向島2-34-12 サニーフラット202号
PHONE & FAX：03-3610-2292
E-mail otoiawase@oto.or.jp
URL：http://www.oto.or.jp/
facebook：https://www.facebook.com/ototano/

